

あとがき

「もっと身の丈に合った研究をすればよかったのかな。」

拙著『関係的権利論』のあとがきで私はこのように述べた。このあとがきを書いている今も、実感を持って、「その通り!」と言いたくなってしまう。けれども、それが(研究者としての)私そのものなのだろう。力量に見合わない問いに関心を持つという、研究者としては筋の悪い自分の「個性」を受け止めつつ、今後も「背伸び」をしながら研究を続けていきたい。

本書では以下の諸論考(の一部)を用いている。いずれも大幅に加除修正を施しており、ほとんど原型をとどめていないものもある。

- (1)「親の正義論」,『岡山大学法学会雑誌』,第67巻第3・4号,2018年,519-560頁
- (2)「子どもとケア」,『法哲学年報 2016 ケアの法 ケアからの法』,2017年,33-47頁
- (3)「親業免許制度とリベラリズム」,『岡山大学法学会雑誌』,第67巻第1号,2017年,144-178頁
- (4)「市民性教育とリベラルデモクラシー」,『岡山大学法学会雑誌』,第65巻第3・4号,2016年,1180-1214頁
- (5)「子どもをめぐる規範理論」,『岡山大学法学会雑誌』,第65巻第1号,2015年,179-208頁
- (6)「『子どもの権利』をめぐる関係性のありよう」,『神戸法学雑誌』,第62巻第1・2号,2012年,355-379頁
- (7)「子どもの権利論における人間学的基礎 子ども論・子ども学から」,『立教法学』,2011年,第83号,252-278頁

研究環境の厳しさが増す中、ここ十年ほどの本書執筆過程において、日本学術振興会から以下の科研費助成(いずれも基盤研究(C))をいただけたことは大変ありがたかった。

「分配的正義論と子育てコスト：親の正義論の観点から(研究課題番号19K01264)」
「子育て・教育に関わる基礎理論としての社会的規範理論の構築(研究課題番号

15K03083)」

「子どもの権利論の基底に位置づく子ども論・子ども学 (研究課題番号24530002)」

「現代日本社会における『教育・子育て』の社会哲学的布置 (研究課題番号21530002)」

法律文化社の舟木和久氏からはひとかたならぬご援助を賜った。本書出版の話をしていただいてから三年あまりの間、的確かつ温かなご助言、そして着実な編集作業をしていただいた。ここに記して感謝申し上げたい。

最後に、恩師井上達夫先生に。大学院進学以来、ほぼ三十年間にわたって先生の薫陶を受け、未熟ながらもなんとか二冊目の単著を世に送り出すことができました。ほんとうにありがとうございました。

2020年7月

大江 洋